

2023 年度 「AI・データ活用力育成プログラム」 自己点検・評価 報告書

甲南女子大学 教学マネジメント委員会

2024 年 5 月 27 日

2023 年度の甲南女子大学「AI・データ活用力育成プログラム」の自己点検・評価を以下に記載する。

(1) 学内からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																												
プログラムの履修 修得状況	<p>2023 年度のプログラム各科目について、履修率・単位取得率は以下のとおりである。</p> <table border="1"><thead><tr><th>科目名</th><th>配当年次</th><th>履修率</th><th>単位取得率</th></tr></thead><tbody><tr><td>情報とコンピュータ I</td><td>1</td><td>100%</td><td>95.3%</td></tr><tr><td>情報とコンピュータ II</td><td>1</td><td>100%</td><td>94.2%</td></tr><tr><td>AI とライフデザイン</td><td>2～</td><td>5.8%</td><td>86.8%</td></tr><tr><td>コンピュータと社会</td><td>2～</td><td>0.9%</td><td>75.0%</td></tr><tr><td>統計学の基礎</td><td>1～</td><td>5.5%</td><td>89.4%</td></tr><tr><td>ビジネス情報実習</td><td>2～</td><td>1.6%</td><td>80.0%</td></tr></tbody></table> <p>※プログラム科目表のうち、学科専攻科目については割愛</p> <p>プログラム修了者数 : 22 名 (2023 年度末時点)</p> <p>本プログラムの構成科目の一部である「情報とコンピュータ I・II」は全学部 1 年次の必修科目であり、教務課が自動的に履修登録を行うことで入学者全員が履修する仕組みとしている。一方で「AI とライフデザイン」「コンピュータと社会」等の選択科目について、履修率の向上に改善の余地が見られる。</p>	科目名	配当年次	履修率	単位取得率	情報とコンピュータ I	1	100%	95.3%	情報とコンピュータ II	1	100%	94.2%	AI とライフデザイン	2～	5.8%	86.8%	コンピュータと社会	2～	0.9%	75.0%	統計学の基礎	1～	5.5%	89.4%	ビジネス情報実習	2～	1.6%	80.0%
科目名	配当年次	履修率	単位取得率																										
情報とコンピュータ I	1	100%	95.3%																										
情報とコンピュータ II	1	100%	94.2%																										
AI とライフデザイン	2～	5.8%	86.8%																										
コンピュータと社会	2～	0.9%	75.0%																										
統計学の基礎	1～	5.5%	89.4%																										
ビジネス情報実習	2～	1.6%	80.0%																										
学修成果	<p>FD 委員会が後期末に実施した「授業改善のためのアンケート」の、【当該科目で良かった点があれば、記入してください】という設問において、「情報とコンピュータ I」では、「メールでの注意点や Excel の使い方など、今後社会で必要なスキルを身に付けることができた」、情報とコンピュータ II においては、「データ調査など難しい課題もあったが、今後役に立ちそうな PC スキルを身に付けることができた」等、ポジティブな回答も見受けられ一定の学修成果があったといえる。</p>																												

<p>学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度</p>	<p>FD 委員会が後期末に実施した「授業改善のためのアンケート」の、【授業満足度】を測る設問において、「情報とコンピュータⅠ」について、【強くそう思う】、【ややそう思う】を選択した学生は 86.9%（昨年度 88.8%）であった。「情報とコンピュータⅡ」について、【強くそう思う】、【ややそう思う】を選択した学生は 79.1（昨年度 72%）であった。</p> <p>「情報とコンピュータⅠ」の満足度について昨年度と比べ、若干減少したが、「情報とコンピュータⅠ」と比較し、扱う内容の難易度が上がる「情報とコンピュータⅡ」の満足度については、昨年度と比べ、7%の上昇と大きく改善されていることが確認できた。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度</p>	<p>本プログラムで開講する「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」は全学必修科目であるため、本学に入学すると全員が受講しなければならない。授業内で本プログラムの周知を行っているため、後輩学生等への履修推奨の積極的な取り組みは実施していない。</p> <p>2023 年度より大学 HP 内に特設ページ「3分でわかる甲南女子大学」を設置している。当該ページにおいて、本学の強みの 1 つとして「AI・データ活用力育成プログラム」を紹介し、プログラム概要や科目表を掲載している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた 計画の達成・進捗状況</p>	<p>本学の当プログラムは 1 年次必修科目を含むため、履修者については 1 年ごとに確実に向上することが見込まれる。</p> <p>但し、「プログラムの履修・修得状況」欄にも記載の通り、選択科目の履修率が芳しくなく、今後プログラム修了者を増加させるために、1 年次必修科目「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」の講義内にて、当プログラムを積極的に告知することや、プログラムを発展させるための全学共通教育委員会を定期的に実施し、その他プログラムを構成する科目の履修促進方法を協議・検討していく。</p>

（2）学外からの視点

<p>自己点検・評価の視点</p>	<p>自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等</p>
<p>教育プログラム修了者の 進路活躍状況、 企業等の評価</p>	<p>本学の当プログラムは 2022 年度から開始しており、現時点で修了者が卒業しておらず、評価することができない。</p> <p>2026 年度には、プログラムを修了した学生の進路について、キャリアセンターが実施している進路調査から把握する予定。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム 内容・手法等への意見</p>	<p>キャリアセンターと連携し、学内企業説明会で協力関係にある企業 10 社から、本プログラムの意義や実施状況を踏まえた意見を聴取した。</p> <p>以下、アンケート回答内容の一部を抜粋し、掲載する。</p>

【入社する学生に、学生のうちに身につけてほしい能力（知識）について】

- ・word、excel、powerpoint の基本的な操作ができる [10 社中 10 社回答]
- ・目的に応じて適切なメールを送ることができる [10 社中 9 社回答]
- ・情報倫理（情報を扱う上でのモラルやマナー） [10 社中 7 社回答]
- ・データ集計、表・グラフ作成ができる [10 社中 7 社回答]

【AI やビッグデータの活用のためにどのような教育が必要と考えるか】

・word や excel、powerpoint の基礎スキルはもちろんですが、急速に発展しているデジタル社会や AI に対して、常に情報を収集し、学び続けようとするマインド形成も同様に必要なのではないかと思います。（小売り・百貨店 人事担当者様より）

・IT 技術に慣れ、最新の技術に接触・利用するような機会があればいいと思います。IT 技術に対する好奇心・挑戦心を伸ばし、様々な IT ツールを利用して、効率的に・効果的に業務を進める方法を探求・実践できる人材を育成いただきたいです。

（IT 専門商社 人事担当者様より）

【「AI・データ活用力育成プログラム」の主旨・目的や科目構成についての意見】

・学生のうちからこのようなプログラムを受講するのは大変有意義であり、社会に出る前に身につけておくべきものですので内容については賛成です。基礎的なものを 1 年次に実施するのみでは日常的に触らないと忘れてしまうこともあるので定期的に使用するよう工夫する必要があると考えます。（損害保険 人事担当者様より）

・低年次に学習できるのはよいと思いましたが、3 年生以降のゼミ活動などでも積極的に活用できる場がないと学んだ意味を見出せずに就職されるように感じます。低年次以降の継続した運用カリキュラムも作成されるとより有意義と感じました。

（美容メーカー 人事担当者様より）

業種が異なる 10 社の担当者より、現場における AI・データ活用の利用状況や課題、大学に求めること等について貴重な意見を聴取することができた。

配属される部署や職種により、求められるスキルは異なるが、基本的な PC スキル、情報セキュリティ等の基本知識は身に付けてほしいという意見が多くみられた。

大学卒業時において、データ活用の手法や PC スキルが備わっていなかったとしても、入社後必要なスキルは積極的に学ぶ意欲や姿勢が必要との意見も多く頂戴した。

本学プログラムの構成する科目について、1, 2 年次生で修得した内容が、3 年次以降に活用される場面が少ないのではという意見も頂戴したため、今後のプログラム内容の見直しに役立てたい。

(3) その他

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	必修科目「情報とコンピュータⅡ」では、初学者向けに編集されたテキストを用い、顧客分析、仕入計画など、専門分野によらず関心を持つ事例を用いて分析を行うほか、「AIで変わる私たちの暮らし」として、まちづくり、防災・環境、エネルギー、農業・食品など、身近な分野の事例を紹介している。また、「AI時代に求められる人材」について理解を深めることで、自らが学ぶべき意義について再確認するようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	必修科目「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」では、反転授業の要素を取り入れ、毎回事前学習課題に取り組む形式としている。教員は事前学習課題の提出物を評価し、理解が難しいポイントを特定して重点的に対面授業で解説するよう工夫している。 FD委員会が各中間・期末に実施する「授業改善のためのアンケート」において、特に受講生が困っていることを把握したうえで、その後の授業に活用している。 前期、後期の授業終了後には、担当教員全員の振り返りを共有し、授業内容や実施方法を改善する取り組みも行っている。